ビッグパレットふくしま避難所内女性専用スペースの運営支援状況報告

H23.12.13

福島県男女共生センター事業課

女性専用スペースの取り組みの概要

避難生活を送る女性たちが安心して過ごせる場所として女性専用の部屋が避難所内に設置されたのを機に、当センターと郡山市内の女性団体が連携し、各団体のメンバーが日替わりで常駐して相談窓口の情報や女性に必要な物資等の提供を行ったり、避難している女性同士あるいは避難している女性との交流をしたりしながら様々な形で女性たちの支援を行った。

目的

①避難所で生活する女性たちの安全と安心の確保

②避難女性と地元（郡山市）の女性たちとの交流

案内用に作成したポスター・チラシ

1　オープンのきっかけ

○避難所で生活する女性たちの声がきっかけ「着替える場所がない」、「男性の目が気になる」など、女性が困っているという状況から、４月１７日に県庁避難所運営支援チームが女性専用スペースを設置。

○県庁支援チームから依頼を受けた福島県男女共生センターが４月２３日より運営支援を開始。

○その後、当センターから郡山市男女共同参画センターや郡山市内の女性団体に協力を依頼。５月より郡山市を中心に活動している３団体が日替わりで運営を担当した。

スペースの入り口

ソファ、鏡なども設置

【運営参画団体】

- 郡山市婦人団体協議会（小林清美会長）　日・水曜日
- 女性の自立を応援する会（苅米照子代表）月・土曜日
- しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島（遠野馨理事長）主に火・木・金、他

※その他、首都大学東京大学院人文学研究科の院生がボランティアとして参加。

※避難所内生活支援ボランティアセンター「おだがいさまセンター」（川内村、富岡町社会福祉協議会）からも協力を得た。

３　運営状況

（１）運営方針

①避難している女性たちが安心して過ごせる場所を提供することとし、「相談」という看板は掲げない

②スタッフは利用者と同じ目線に立ち話し相手となる

③DV・性暴力等が発覚した場合は専門機関等へつなぐ

（２）主な取り組み

①安心してくつろげる場の提供

・避難生活における不安や不満などの傾聴と相談。

②女性専用スペースＰＲ活動

・チラシ・ポスターを作成し、女子トイレ等に掲示。
・各女性団体が個別に避難所の女性にチラシを配付。
・新聞、ＴＶ番組等マスコミへの取材依頼。

③女性の安全確保のための取り組み

・相談窓口等が記載された携帯用カードを女子トイレ等に設置。
・防犯ブザーの配付（福島大学高橋準教授、個人ボランティア等からの支援約 200 個）
・防犯対策、相談窓口情報（ポスター・チラシ・リーフレットなど）の掲示・提供。

④女性のための物資等の提供

・トリンプブラジャーの受付・配付（サイズを測り送ってもらう 約 290 件）
・食器、衣類、バッグ等の提供（各団体の持ち寄りなど）
・化粧品、生理用品等の提供（団体からの支援、物資倉庫から調達）

⑤ストレス解消のための楽しめる場の提供

・お菓子・お茶等の提供
・料理会（郡山市婦人団体協議会　これまでに４回実施　各回１５～２５名程度参加）
・折り紙・手芸教室（郡山市婦人団体協議会）
・アートワークショップ（表札づくり、暴力防止のためのワークショップなど）・手仕事・刺繍（しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島）

⑥他機関・ボランティアへの場所の提供

・日弁連の女性弁護士による相談
・ボランティア団体・個人によるフェイスマッサージ、ハンドマッサージなど

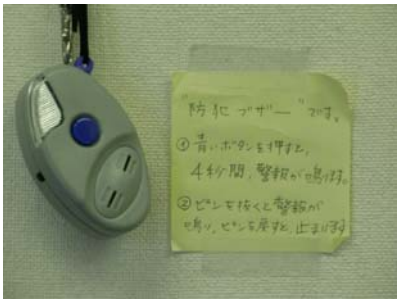
４　利用状況および利用者の声

（１）利用状況

・利用可能時間：毎日９時～２１時（１２時間）
・利用者数：１日平均５０～１００名程度（食事の時間帯は利用者は少ない）
・スタッフとのおしゃべり等のほか、着替え、授乳、ドライヤー使用、食器・野菜洗い、衣服の補正、昼寝、読書などにも利用された。
・１人当たりの滞在時間も２，３分～１時間以上と様々で、スタッフと話をしたり、手芸など一緒に手仕事をしたりする方、挨拶だけ交わして洗い物をしてすぐに退室する方がいた。
・隣にある喫茶コーナー「ツツジ」のスタッフ（避難者ボ

ママたちの待ち合わせ場にも

相談窓口・生活情報

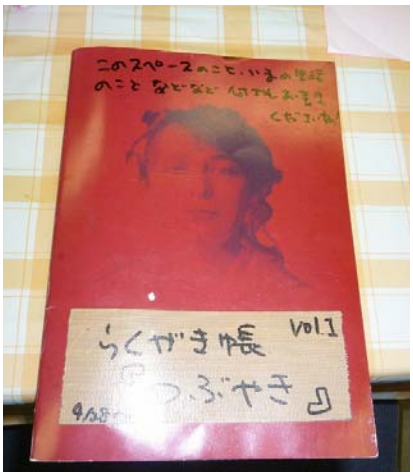

防犯ブザーも設置

料理会の様子（公民館にて）

手仕事（刺繍）の様子

ランティア）が洗い物などで利用することもあった。
たまに、喫茶「ツツジ」からの差し入れもあったり、逆に女性専用スペースの物品を提供したりしてお互いに協力し合った。

（２）利用者の声（つぶやきノートより）



つぶやきが綴られたノート

☆「あたたかいコーヒーやお菓子があって、とてもホッとします。」
☆「とてもリラックスできてストレスも発散できました。」
☆「部屋を訪れるたびに我が家にいるような、戻ってきたような感じがします。」
☆「お会いできた方とお話が出来、肩に力が入ることなく自然に自分を出し切れるのが楽です。」
☆「勇気・元気をいただき幸せいっぱいです」
☆「この部屋に来るのがとても楽しみです。」
☆「何となく体、精神的に何か疲労なのかわかりませんが、この部屋で救われます。」
☆「私にとってのビタミン剤です。つくってくれてありがとうございました。」

５　その他

研修の様子

○スタッフ研修・情報交換会の実施
日時：６月１９日（日）　１３：３０～１６：００
講師：丹羽雅代さん（アジア女性資料センター、元東京ウィメンズプラザ相談員）
内容：支援者のメンタルヘルスについての講話と情報交換
※東日本大震災女性センターネットワーク募金事業

○生活支援としての「内職あっせん」の情報提供
当センターは地元企業等（事業所：空きスペースを作業場所として提供、企業：内職あっせん）の協力を受け、ビッグパレットへの避難者を中心に、内職のあっせんをし、生活支援を行っていたが、女性専用スペース利用者にも情報提供した。うち利用者数名が実際に内職を行った。

○避難所閉所（８月３１日）後は、各団体がそれぞれ独自に被災女性等への支援を行っている。
（例：仮設でのサロン活動、手芸教室、地域公民館事業への参加案内、電話相談など）

○団体を対象とした電話相談員研修の実施※東日本大震災女性センターネットワーク募金事業
日時：１２月８日（木）　１０：００～１２：００
講師：川畑真理子さん（とよなか男女共同参画推進センター相談事業主任、元兵庫県男女共同参画センター相談員）

スペース設置当初

多くの利用者、スタッフで賑わう